

雪 害 対 策 特 報

平成24年2月3日

J A 中野市雪害対策本部

1月下旬からの大雪により、りんごやももの樹体、ぶどうや梨などの棚、ハウス施設にかなりの着雪が見られております。今後は、雪の中に入っている枝の沈降による枝折れ被害、新たな積雪による枝折れ、棚の倒壊も心配されますので、下記の雪害対策を実施して下さい。

●降雪状況（田上観測地点朝9時の状況）

月 日	積雪量
1月30日	185 cm

参考：平成18年1月4日 積雪量 200 cm
(最大計測)

◎1立方メートルの雪の重さは？

- ・ざらめ雪・・・およそ300～500k
 - ・しまり雪・・・200～500k
 - ・小しまり雪・・・150～250k
- 枝に対し雪の層が布団をかけたような形で力が加わる。

1. 雪害防止対策 ⇒ **降雪の都度、早めに樹上の雪を落とす！！**

☆ 消雪剤は複数回散布し層状に処理すると融雪が早まり、引っ張りも和らげられます。

消雪剤「炭の里」-40%入り

(助成措置を予定しております。)

107-ル当たり3～4袋、まとまった降雪のたびに枝のある部分を中心に散布してください。

(1) りんご・もも・梨・核果類の枝折れ防止対策

①雪に埋まった側枝は、雪の沈降で折れないように速やかに掘り上げてください。掘り上げた枝の下の雪は踏み固め、以後の積雪により枝が引っ張られることを緩和する。特にわい性台樹では必ず実施してください。

②掘り起しが困難な場合

●応急処置として枝のある上層だけを掘り起こし、枝下の雪を硬く踏み込んでおく。

また、幹の元の空洞部へ雪を踏み込む。

●消雪剤を枝のある位置、樹冠下に早急に散布する。20cm前後の積雪（降雪）があった場合は追加散布し、層状にざらめ雪の層を作って融雪、沈降力の減退を図る。

●融雪が進んできたら枝が埋没した雪の層にスコップを深く入れ、切れ目を多く作り枝を動かしておく。裂開被害が進んでいる場合は、途中から切り落とし健全部を助ける。

●根元の空洞部へ殺そ剤を投入するなど、野そ駆除の徹底を図る

③粗剪定を早めに実施してください。（切口にはトップジンMペーストを塗布する）

④裂けやすい枝には、支柱を設置してください。

(2) ぶどう棚・梨棚・プラム棚などの倒壊対策

①降雪のたびに棚上の雪を落とす。また、粗剪定を早めに実施して棚を軽くしてください。

②主枝など太い部分等は雪が溜まり下がりやすいので、支柱を立て補強してください。

③スミ柱周囲の雪を掘り起こす。または雪割りを行い、積雪の沈降による引っ張りを和らげる対策を行う。

④雪が棚面まで達しているものは外周線を掘り出し、棚の倒壊を防ぐ。また消雪剤の散布、棚面の番線を持ち上げ浮かすなどして沈降を防ぐ。

(3) 果樹・野菜・花 施設対策

①加温設備があるハウスでは加温機をフル稼働し谷間の融雪を行なってください。ビニール等内張りカーテンがある場合は、カーテンを20cm程開けてハウス全体の温度を上げるようにしてください。

* 燃料切れがないように注意してください。あわせて給油口付近の除雪を行ってください。

◎重油もれに十分注意してください。

地上配管の接合部が雪の重みで外れ、重油がもれる心配があります。除雪を行い、バルブを閉めてください。

②ハウス周辺の除雪や消雪剤散布を行い、ハウス上部の落雪を促進させてください。

③冬季間利用しないパイプハウス及び、加温前のハウス倒壊原因となるツマ面のビニール・防鳥網等を除去していない施設は早急に除去する。また、巻き上げ式のビニールはしっかりと巻き上げておく。

④無加温・鉄骨ハウスは、雪の溜まる部分を常時雪おろしする。また、中柱で補強する。

2. 雪害を被った場合の応急対策

(1) りんご・もも・核果類などの立木

- ①太枝が完全に裂けたものは、切断面を滑らかに切除し、トップジンMペーストを塗布して癒合を早めるとともに乾燥や枯れ込みを防いでください。
- ②主枝分岐部・骨格枝分岐部分が大きく裂開したもので接合できるものは支柱で持ち上げて補強し、カスガイ・ボルト・縄等で固定してください。接合部の癒合を早めるために、接合したあとトップジンMペーストを塗布してから、雨水の侵入や乾燥を防ぐためムシロやシルバーフィルム等で覆ってください。

(2) ぶどう棚・梨棚・プラム棚・ハウスなどの施設

- ①棚が倒壊した園地は、とりあえず樹体被害を最小限にするため早めに支柱で棚を起こす。
- ②すぐに棚が起こせない場合は、主幹・主枝等の分岐点に損傷が発生しないように重要な枝だけでも支柱で起こす。
- ③主枝分岐箇所などが裂けてしまった場合は縄などでそれ以上裂けないようしっかり縛る。
- ④棚上にも雪がある場合は棚上にも消雪剤をまく。

果樹棚の雪降ろしの方法

ぶどう棚の雪降ろしの最中に、棚が倒壊する事例があります。棚にかかる重量バランスが崩れ、一部に重さが集中し、そこから倒壊したと思われます。

今後、ぶどう、梨、プラムなど果樹棚の雪降ろしをする時は、次に注意して行ってください。

- ①平坦地では、棚の中心部から外側に向かって、徐々に円を広げるように雪を降ろしてください。(図1)
- ②傾斜地では、坂の下部分～上部分と2～3に分け、坂の下側からそれぞれの部分の雪を降ろしてください。(図2)
- ③数人で作業する場合は、互いにバランスを取りながら雪を降ろしてください。特にAマストの棚の支柱が傾いている場合は、雪降ろしにより支柱が倒れることがありますので、支える等の工夫をしてください。

図1 平坦地での雪の降ろし方

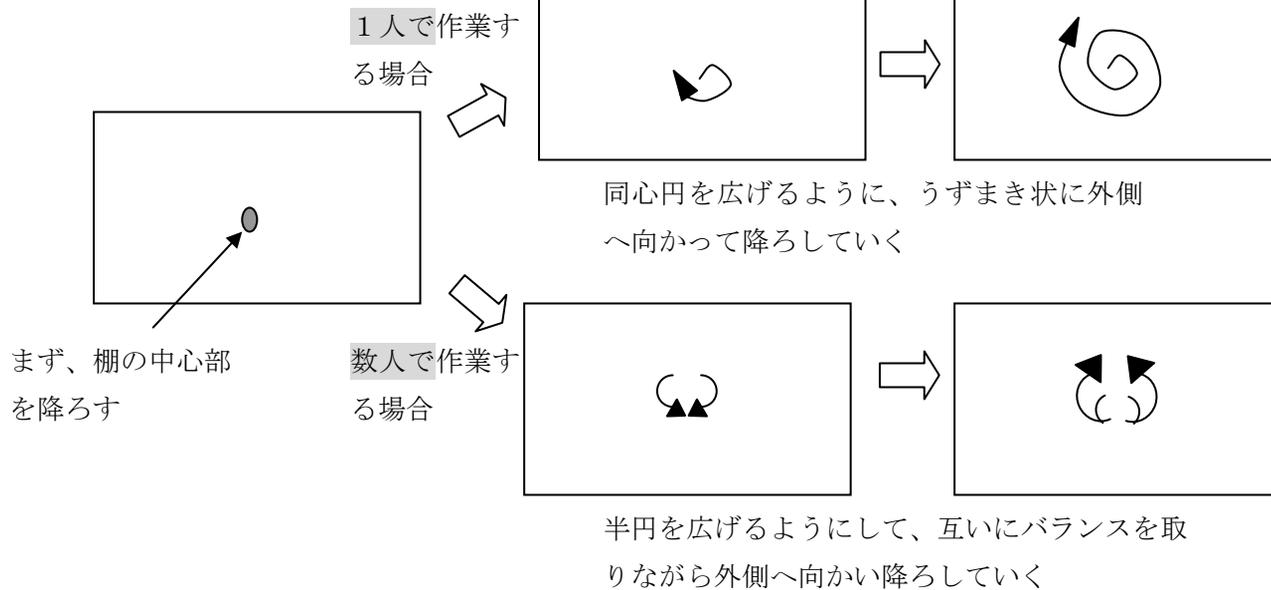
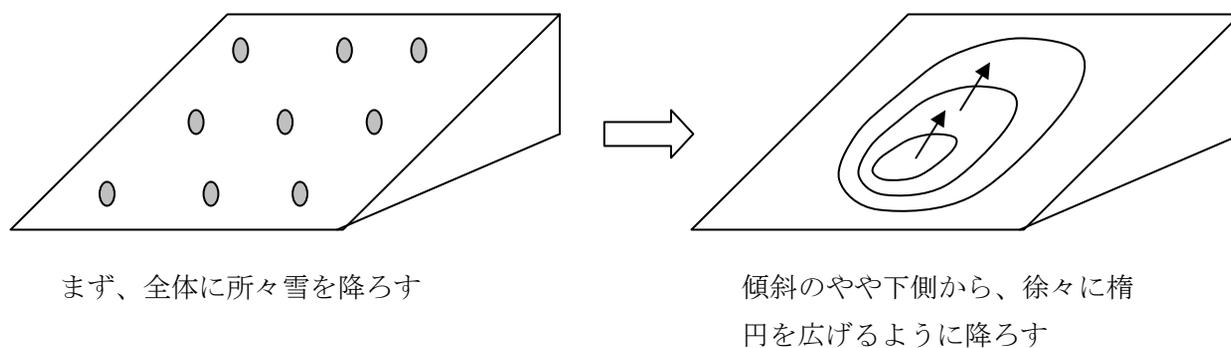


図2 傾斜地での雪の降ろし方



注意！①棚の端から雪を降ろしていくと、残った部分に重さが集中し、倒壊しやすくなります。

(特に、湿った雪が多く積もった場合)

- ②上図は基本です。雪の状況に応じて、臨機応変に雪降ろしを行ってください。